

第3回第二次多摩市特別支援教育推進計画策定委員会 要点録

日 時:令和元年10月31日(木)14:00~16:20

場 所:教育センター201研修室

出席委員:小貫委員長、加納副委員長、柏原副委員長、阿部委員、高橋委員、細井委員、松崎委員、宮坂委員、安井委員、柳村委員、山本委員

欠席委員:金森委員、松本委員

事務局:山本教育部参事、伊野学校支援課長、田島教育センター長、高橋指導主事、鈴木指導主事、永井学事係長、根津特別支援・相談担当主査、齋郷特別支援・相談担当主査、鈴木発達支援室担当主査、井上教育センター主任、坂本教育センター所員

1 教育委員会挨拶

山本教育部参事より挨拶

2 報告事項

(1) 多摩市特別支援教育推進計画の学習会(第1回及び第3回)について

・事務局から、学習会の当日の様子や内容等について報告

(2) 多摩市特別支援教育推進計画の学習会の延期(第2回)について

・事務局から、台風の影響で12月に延期になったことを説明

3 協議事項

(1)①第1章「計画の理念」について、事務局より説明

・第二次多摩市特別支援教育推進計画(以下、第二次推進計画)の理念は、多摩市特別支援教育推進計画からの理念を引継ぎ、変更しない。

・東京都の特別支援教育推進計画第二期・第一次実施計画では理念の中で「貢献」という言葉を使用しているが、多摩市の第二次推進計画の案では使用していないので、ご意見をいただきたい。

(質疑・意見等)

委員	理念を変えないのは問題ない。「貢献」については、何か具体的な取り組みがあるならば入れる方が良い。具体的な取り組みがないならば入れる必要はないと思う。
委員長	東京都では「貢献」に対する具体的な取り組みは何を行っているのか。
委員	特別支援学校の高等部では自立と社会参加が目前になる年齢なので、社会参加＝社会貢献という力を育てるために、職業学校を設置するなどの取り組みをすすめている。多摩市は義務教育段階なので、直接的に「貢献」の具体的な取り組みは入れないという考えはあると思う。
委員長	東京都は、就労を意識して「貢献」という言葉を使用しているということか。義務教

	育段階では、就労という差し迫った状況にはないので、具体的な取り組みがないのに「貢献」を入れるのはいかがか、という意見か。
委員	言葉を入れると、それに合った具体的な取り組みを示していかなければならない。ただ東京都でも、自立と社会参加だけで「貢献」と言っているわけではなく、小学部中学部段階でも、地域社会に貢献できる教育の取り組みはあると思うので、多摩市でもそういったことを含めて計画を進めていくのであれば、「貢献」という言葉は入れても良いと思う。
委員	息子が南大沢学園の就労技術科に通っているが、最近は、「学校に行く意味が分からない」、「仕事はしたいが学校には行きたくない。」と言っている。保護者としては、仕事の内容を教えてもらっていると思っているが、本人としては、働いているのに何もない、ただ働きとを感じるようだ。社会を知って成長したからそう感じるようになったのだと思うが、大人は社会貢献と言うが、現実的に当事者はそう感じることもある。
委員	多摩桜の丘学園では地域への貢献を重要と考えていて、小学部、中学部から積極的に教育に取り入れている。誰かの役に立つ、社会の役に立つことで周りから評価をされ、それが自信になったり、また、褒められることでもっと頑張ろうという意欲が出たり、そういうことを小さいころから育てていくのが大事だと思っている。 そういう意味で、多摩市でも具体的な方策や教育の中身の充実を考えていくのであれば、理念の中に「貢献」という言葉を入れる意味はあると思う。ただ、理念は具体的な構造を伴って実現していくことで初めて意味があるので、理念に入れただけで後になにも続かないのであればあまり意味がないと思う。
委員長	具体的なサジェスチョンがあれば、ということか。
委員	何か具体的な案があるわけではないが、何か人の役に立つとか、社会の役に立つという教育の中身は、障害の有無にかかわらず、小さい時から入れていくべきと考える。個人的には、理念にもその言葉を入れて、そういう教育の中身も整えてもらいたいと思う。
委員	PIOには「社会貢献」という言葉が出ているが、理念にはなくても社会貢献は活きたままといいことか。
事務局	「貢献」という言葉を入れるかどうかは、事務局の方でも議論があった。 PIOの自立や社会参加に関する研修では、将来の自立と社会参加に向けたゴール像を目指して、義務教育の段階でどういった力を身につけさせるか、そのための教育をどう行っていくのか、そういった実践を積み重ねていくことがやがては貢献に繋がっていくのではないかと考える。 一方、大きく理念を変える必要があるかという点では、これまでの理念でも「地域の一員として生きていく力」や「社会での生きる力」という言葉を入れているので、この中には「貢献」という内容も含まれていたのではないかと、という考え方もあり、今日の会議で意見をいただきたいと思い、お諮りしている。

委員	就職することがゴールではない。ゴールという言葉は、保護者としては使用してほしくない。
委員長	親としてのゴール設定と、義務教育側のゴールは意味が異なるので、誤解がない説明をした方が良い。 多摩市は将来の自立や社会参加という言葉は既に使用していて、社会参加の後には当然貢献する実態があるだろうということで、社会参加をゴールにするのではなく、その社会参加の中身に対するアクションがなければ、言葉だけのことになっていく可能性がある。 「貢献」という言葉は安易にいれず、ただし、この委員会の場で議論された内容は重視し、今後も引き続き検討していくことにしたい。社会参加で終わらず、その中身・質も高めていく必要がある。今後、ご意見があれば事務局にお伝えいただくこととし、理念については原案のとおりとする。

②第1章「計画策定の目的、国や都の動向について」、事務局より説明
(質疑・意見等)

委員	この計画は一般の市民にも読んでもらうことを考えているのか。世界や国の動向の記載は難しくないか？もう少し平易な文章で、分かり易い内容にできないか。WHO はまだわかるかもしれないが、ICFと言われても理解できるか。
委員長	他市ではこんなに丁寧に ICF を書いているところはなく、もっと分かりにくい。
委員	ICF という言葉は、一般市民向けに必要な疑問がある。
委員長	この計画は一般市民にも読んでもらうが、教育委員会の計画として作られているので、両睨みの性質もある。この計画にいたるまでの多摩市の動向や変革・流れについては、これまでのこと、今、未来をわかるようにまとめて巻末に資料としてつけた方が良いと思う。その中でも、どこまで内容を削って分かり易くするかというところだが、ICF は削ったほうが良いとの考えか？
委員	同じことをもっと分かり易い言葉で言えるのではないかと思う。
委員長	社会モデルという言葉が入ってもいいのかなと思う。これまで、個人が変化しなさいという個人モデルが障害者教育の大きな影響を持ってきた時代から、これからは個人だけではなく社会も成長変化して初めて障害が軽減されるという意味合いが出てくるので、「環境因子に働きかける」「社会の変化」などの言い方が考えられる。もう一度原案を見直してもらえればと思う。
委員	一般の人向けということであれば、P9 の「ユニバーサルデザインの視点」とは、具体的にどういうものかわかるようにした方が良い。ユニバーサルデザインがどういうものなのか、この計画を読んでわかるようになれば、保護者がここを読んで、先生とも話ができるようになるのではないかと思う。
委員長	文部科学省などで「この情報は〇〇の HP にあります」という記載をすることがある

	が、もう少し情報を知りたいとなった時に何か確認できる書き方は可能か。ここに全ての情報を記述すると膨大な量になるので重要なことを絞る必要はあるが、重要なことを絞ってさらっと書きすぎると今度は内容がよく分からないということにもなってしまいますので、丁寧な書き方を検討してもらいたい。 先ほどの委員からの指摘で改めて(P9-10の)文章を読み直したが、主語が分かりにくい。社会貢献をするのは誰なのかが分からない。最後の2行目の「能力を伸長させることにより、共に生き、育ち、社会に貢献するとともに、共生社会の実現を目指します。」で終わっているが、「…共生社会の実現を目指すような人材を育成します。」とか、目指すのが誰でもどこのか、言葉をもっと明確にしないといけないかなと思うが。
事務局	ご指摘のとおり、主語が分かりにくいこともそうだし、1文が長くなってしまっていて内容が伝わらない文章になっているので、事務局で整理をする。
委員長	誤解を招かない丁寧な書き方にしてもらいたい。
委員	P6 の「イ都の動向」の「…社会に参加・貢献できる人間を育成すること」を受けて多摩市の内容を記載しているのであれば揃えた方が良いと思う。
委員長	全体を見ると、人材育成は障害のある子に限らず、共生社会は障害がある方もない方も含めてのことで、教育全体を指しているのかなと思える。そうすると読み方がまた変わってきて、障害がある子の社会貢献というテーマではなく、教育の理念としてのものと読み取れるので、その辺は整理してもらいたい。
委員	2について、(1)と(2)のボリュームのバランスが悪い。(1)がほぼ10割を占めていて、(2)はほとんど量がない。計画策定の経過にいろいろ説明を詰め込み過ぎているのでこうなっているのではないか。個人的には章立て自体に少し疑問があり、もう少し順序だてた上手な説明の仕方があるのではないかと思う。また、多摩市の動向の中で、今まで1次計画で取り組んできたこととその成果は、どういう形で整理されているのか。動向の中で少し触れていたり、2章1の学校における教育方法・内容にちょっとだけ書いていたりするので、1次計画で取り組んだ成果をどのように捉えて、それをどのように次の計画に繋げて、だから2次計画の目的はこうなるんだ、という流れがうまくできていないように思う。
委員長	最近のドキュメントの流れとしては、計画策定の目的を先に大きく書いて、次になぜそういう目的を設定したか説明する方が良いのかもしれない。計画で知りたいのは目的であって、何故その目的が出てきたのかは見る人も見る人もいないだろう。
委員	私もそのように思う。(2)計画策定の目的の位置はここではない方が良いと思う。
委員長	(2)はなくして、目的は先にもってくる。その後、経緯を説明するというやり方もある。事務局としてはいかがか。
事務局	(1)の説明は資料の方にまわして、もう少しスリム化を図る。

委員長	他に気になったのが、P6の「学習指導要領総則の解説」と、同じ行の「各教科の解説」という中での「カイセツ」は、違う意味になる。「学習指導要領総則」の「解説」は冊子のタイトルを指しており、「各教科の解説」は一般的な意味での「解説」になる。読もうと思っている先生にとっては紛らわしいので、意味を整理していただければ。
-----	---

③第1章「計画の位置づけについて」事務局より説明

(質疑・意見等)

委員	前の話に戻るが、1次計画の成果は、この計画の中ではどこでどのように整理されているのか。前回の委員会で1次計画の成果と課題について説明してもらっているが、それはどこに出ているのか。
事務局	成果については P13 以降の第2章の項目毎に、どういうことを実施してきたか、これから求められていくこと、まだ残っている課題などを記載し、今後の方向性につなげていく形式としている。評価について、P10 より前にも重複して記載しているので整理は必要と思っている。他にも分かりにくいところがあれば、ご意見をいただいて適宜変更していきたい。
委員長	素案の段階では、いろんなところで同じことを説明していたり、重要な説明が抜けていたりということはよくあることで、作成している側は気づきにくくなる。ニュートラルな立場で意見を言ってもらうのが良い。 個人的に、特別支援教育の領域では計画が5年は長いと思っている。3年でやっている自治体もある。ただ、多摩市の多くの計画は 5 年ですすめられることが多いとのことなので、そことの整合性もあるとは思うが。 中間評価というか、計画を推進するような会議体を推進委員会という形で、例えば毎年見守る委員会を考える自治体もあるので参考までに検討いただければと思う。

④第2章「学校における教育方法・内容について」事務局より説明

(質疑・意見等)

委員	個別指導計画が100%作られていることはきちんと記載した方が良い。内容に課題はあったとしても、配慮が必要な児童生徒にはきちんと作成していて、様式も整えてこれまで充実を図ってきた。今後は本格的に中身の質を高めていくという流れになる。 個別指導計画や学校生活支援シートの切り口が中心になっているが、障害種別毎の記載は無くても良いのか。知的障害学級、自閉症・情緒障害学級、特別支援教室、言語通級、通常の学級と様々あるが、障害種別の切り口で見ていくことが必要だと思う。指導の前提となる教育課程がきちんと整理されているのかどうか、またその中身も大事なことで、それが整っていてこそその個別指導計画であり、学校生活支
----	--

	援シートだと思う。知的障害と自閉症・情緒障害では教育課程は全く異なるので、教育の内容をどう充実させていくのか、個別指導計画をどういう観点で重視していくのかも違ってくる。この記載内容ではそれが際立ってこないもどかしさがあり、個人的にはそういった障害種別毎のことを出すべきではないかと思う。
委員長	確かに、特別支援教室、通級指導学級と書いてあるので、そこに絞られてしまっている。通常学級の方に特別支援教育のことをどれくらい発信していくか、どうしてもそこに壁があるのでここでも特化してしまっているが、特別支援教育全体の推進であることを考えてもう少し見直してもらうのが良い。
事務局	いただいたご意見を踏まえて、例えば、障害種別毎に、教育課程の現状、東京都や多摩市全体での比較、市として今どういったことが課題になっているかなど、あまり長くならないように本文には端的に記載をして、巻末で詳細な資料を示すような形で、次回提案していきたいと思う。
委員	誤字脱字については改めて確認をしてもらいたい。 P15の校長・副校長のリーダーシップについては、「市教委主催の特別支援教育（校長及び副校長研修）の実施」となっているが、これは表記上どうなのかなと思う。また矢印のところに「中学校特別支援教室における校内委員会の役割等について実施」とあるが、この意味がわからない。小学校はやらなくて良いのか？となるが。 2つめの校内委員会の充実・特別支援教育コーディネーターの資質向上についての項目では、「優れた取組をする小・中学校の校内委員会の活用について共有」とあるが、これも言いたいことが伝わらない。 さらに3つめの個別指導計画・学校生活支援シートの活用の推進については、ざっくりとした内容になっていて、もう少し丁寧に記載をして、それぞれの項目の住み分けをきちんとした方が良い。
事務局	1点目、市教委主催の管理職研修の実施の間違いなので訂正する。小学校についてはご指摘のとおりで、ここでは、令和3年度から中学校特別支援教室の実施があり、各中学校の研修で求められることは何かと考えた時に、稲城市の例を参考にと、校内委員会をどのように活用していくかが課題となっていて、そういった具体的な内容について中学校の管理職が知りたいのではないかと考えてこのような記載となった。 校内委員会のところも、文脈上伝わりにくいところがあるので整理する。 個別指導計画のところでは、知的障害学級共通の様式について令和3年度に検討・準備、令和4年度に作成、令和5年度以降に活用を図っていくことを考えている。
委員	その下の実践事例集についても、もう少し丁寧な書き方をお願いしたい。
委員	表記の仕方として、P15 を見ると1つ目が校長副校長のリーダーシップ、2つ目が校内委員会の充実となっているので、P14 の今後の方向性も(1)校長副校長のリ

	ーダーシップについて、その次に(2)と同じ順番で整理し、そこに何をしていくか、例えば年1回の研修を確実にやっていくとか、校長の経験年数に応じて研修の中身を変えていくとか、具体的な取り組みを記載して、PI5の達成目標・指標と照らし合わせられるようにした方が見やすいと思う。
委員長	文章が長いので、もう少し箇条書きにした方が読みやすい。
委員	優れた取り組みとは何なのかなと保護者からすると思ってしまう。大人からすれば簡単にわかることも、子どもからすれば細かいニュアンスは分からないこともある。大きな指示を出すことは簡単だが、小さな生活に根差したところへの配慮、小さなことの積み重ねで大きなことが生きてくると思うので、そういうのを大事にしてほしい。
委員長	もう少し具体的に言うと。
委員	優れた取り組みとは何なのかなと。子どもが困らないことが大事。大人がいいと思ったことが全て子どももいいと言うとは限らないと思うので、子どもの困り感を減らしていくための言葉にしてほしい。
委員長	管理職は研修が記載されているが、それ以外の教員については？
事務局	この後に記載がある。
委員	特別支援教育コーディネーターの資質の向上とあるが、コーディネーターは各学校に1名いるのか？
事務局	多摩市では2名以上の配置をお願いしている。
委員	特別支援教室の教員は在籍校の教員が担当しているのではなく他の学校からきているという状況か。
事務局	中学校は多摩永山中学校の教員が各学校に行くことになる。
委員	校内委員会に入るのはどちらの教員か。
事務局	在籍校の教員が入る。
委員	一番子どもの特徴などをわかっている巡回の教員が校内委員会に入らなくて、うまくまわるのか？
事務局	小学校は、貝取小を除いて巡回の教員を全校配置にしているので、在籍校の教員として特別支援教室の教員が校内委員会に入っている。ただ、中学校については、対象の生徒数が多くないので、全校に巡回教員を配置することは難しいと考えている。このため、限られた曜日にしかこない巡回教員に合わせて校内委員会を設定できるかどうかも課題となる。在籍校に毎日いる校長、副校長、コーディネーターの3名が校内委員会の運営の核となるが、それらの教員が困らないように、実際にこのように校内委員会を運営していくとうまくいくモデルのようなものを示し、まずはこの3名への研修に特化していく必要があると考えている。
委員長	コーディネーターの委員のご意見はいかがか。
委員	特別支援コーディネーターの研修が月1回市主催であり、情報共有の場は設けられている。本校ではその研修の内容を校内に伝達するような形で、校内委員会で

	必ず共有するようにしている。ただ、特別支援教室の利用を検討しているお子さんについて、どんな風に具体的な手立てを考えていこうとか、合意形成に至るまでにどういう形で相談を進めていこうとか、現実的なところはなかなか共有しにくい。限られた研修の時間の中で、校内委員会を毎月どのように運営しているとか、校内の調整をどのように行っているかなどはとても共有しにくいことで、学校規模にもよるし、学校間で差があると感じている。コーディネーターの経験年数などでも差が出る。本校は特別支援教室の教員が毎日いるので、その人に他校の取り組みを教えてもらっているが、そういったことを事例集などで共有できるようになるのは良いと思う。 また、こういうことでも支援になるのかとか、こういう視点が必要だったのかとか、通常の学級で指導をしている全科の教員の助けになるようなものであるということが事例集の意味合いとして盛り込めると、みなさんにも伝わりやすいのかなと思う。
委員長	この計画を読めば多摩市が何をやっているかわかるということが重要で、我々からすると特別支援教育コーディネーターというとはっと分かるが、まったく学校と関係性がない人には分からないと思う。できるだけ分量を減らして分かり易くするとともに、専門の言葉はきちんとどこかで説明がされるように、情報の置き場の整理も含めて、読んだときに分かるようにしてもらいたい。一筆書きで書いてしまうと内向けのベクトルが向いているようになってしまうので、疑問が解消されるように作ってもらえればと思う。

⑤第2章「外部専門家や都立特別支援学校のセンター校機能、ICT機器の整備を踏まえた支援と指導の充実について」事務局より説明

(質疑・意見等)

委員	教員研修のことを中心に記載しているので、表題の「外部専門家や特別支援学校センター校機能の活用」はずれているのではないかと。ここで言いたいのは教員の専門性の向上のために何をするのかとか、人材育成の話だと思うので、そういう表題にした方が良さそう。P13 の1で学校における教育方法・内容を記載し、そのためにそれを支えるための教員の専門性の向上を図っていきますよというのがこの P17 の2の記載。さらにその手段として外部専門家や特別支援学校センター校機能を活用していくというのが次にくる話だと思う。 ICT 機器の導入もここに記載されているが、これは教育環境の整備なので別の項に移した方が良さそうではないか。ここは人材育成の手段に絞った方が良さそう。 また、P19の表は、何を、いつまでに、どうやるのかをもっと具体的にした方が良さそう。例えば、一番下にある「学校用 PC へのユニバーサルフォントの検討」は令和3年度から7年度までずっと検討になっているが、5年間ずっと検討はおかしい。例えば1～2年目に委員会等で検討し、令和5年度から全校導入にするとか、そういうのが計画といえるのでは。
----	--

委員長	ご指摘のとおりで、実施・検討の区切りや表題のバランスなど事務局の方で見直しを。本日の資料はユニバーサルデザインフォントを使用しているようだが、このようにできることからどんどん進められると思うので、PC・ICT に限らず検討事項が考えられると思う。
委員	P17、4行目の「例えば～」以降の文章が分かりにくい。「特別支援学級等を初めて担当する教員のうち、初任者については、都教育委員会や市教育委員会主催の悉皆研修のみではなく、異動等によって初めて特別支援学級を担当する教員向けの研修を年度当初に実施し…」というところ、もう少し整理してほしい。
事務局	意味が通じるように整理して、文章を見直す。
委員	先ほど委員からも指摘があったが、P18 達成目標・指標の「特別支援教育に関する研修について」のところで、「異動者等を対象にした研修」となっているが、転入者とかそういった内容にした方がよい。
委員	P18 にある「教員の過度な負担とならないように」という記載は、配慮としては必要だが、計画には記載しない方がよい文言だと思う。
委員長	そこは私も気になった。研修は重要なことなので、例えば、業務全般のバランスを考えながら有効な方法ですすめるとか、もう少し分かるような書き方を。きちっとしたことをやっているけど、一般の人から見て怠慢と捉えられないように、全体的に言葉の選択を含めて推敲してもらいたい。

⑥第2章「保護者や家庭への支援・相談体制について」事務局より説明
(質疑・意見等)

委員長	公認心理士になっているので、医師の師に訂正を。
委員	P20の三段落目、転学はこれ以外にも特別支援学級から通常へ転学するケースもある。言葉にするのは難しいと思うが、そういう意味も含めた書き方がよいのではないかなと。 通級で年2回の利用申請といのは、体験ができるということか？
事務局	年2回申込ができる制度だった。利用と書いているが、申込という意味。
委員	P21 の 2 行目の書き方だと、ぱっと見ただけだと、利用者が増えると終了になって出される子どもどんどん増えてしまうのかなと、懸念されてしまうかもしれない。 また、これまでも指摘されているが、達成目標・指標の「教職員経験者の所員と公認心理師相談員の専門性を活かした体制整備」での実施の矢印は何をするのが分からないので、もう少し具体的にされた方が、保護者の方もわかりやすいのでは。
委員	相談件数の推移は資料として記載するのか？
事務局	成果の中で実績として掲載する予定。どういう形で掲載するかは検討する。

⑦第2章「関係機関との連携について」事務局より説明
(質疑・意見等)

委員	副籍制度では本校の児童生徒は多摩市の学校にとてもよくしてもらっている。保護者からもすごく良かったという声がある。共生社会に向けて、障害のない子どもへの理解推進の教育について、もう少し触れてもらえると良い。障害のある子どもへの教育だけではなくて、障害のない子も含めて共生社会をどう作っていくかに対するアプローチの仕方に言及した方が良いと思う。
委員	相談窓口の一本化は、発達支援室だけのことか。教育センターなら教育相談もあるし、子育て総合センターでも発達の課題のケースを扱っていると思うが。
事務局	現在、この諏訪教育複合施設の中には相談窓口が3つあって、内容に合わせてそれぞれで相談を受け付けているが、発達の課題の相談が教育相談のカウンセリングに先に入ってしまう、その後の相談環境の整備に時間がかかるなどの課題も出ている。このため、どうやったらもっと効率的に相談をすすめられるか、問題解決に早くたどり着けるかを検討する必要がある、また、この建物内のことであれば初回相談としてまずはここに連絡すればいいと、学校の先生などが保護者等に案内する際に分かり易いように、窓口の一本化を考えている。 子育て総合センターに関しては虐待等も取り扱っていて相談種別が少し異なる。また、子総で扱ったケースで発達の課題が分かったらすぐに連携をとる体制が構築されているので、そこは一緒にすることは考えていない。
委員	案内する側としては、どこにつなげばいいか分からなくて困ることがあるので、一本化されると助かる。
委員長	P26 では、子育て・福祉部門との連携と書いているので、この建物の中だけという説明を聞いて少し残念な気持ちはある。是非、大きな枠を見据えながら、まずはやれることからやって理想に近づけていくというような記載をしてほしい。子育て部門としてはいかがか。
委員	総合的な窓口のニーズがあるのは承知しているが、子育て総合センターの役割を考えると、総合的な一本化はまだハードルが高いかなと思う。意見があったことは内部でも共有する。
委員長	表面に見えているものだけではなく、内部ではきちんと連携しているという実態はたくさんあると思うので、最低限たらいまわしにはしないように、適切な部署に繋げていくことは引き続き行ってもらいたい。 まだまだ意見はあると思うので、それぞれ持ち帰って個別に事務局に伝えてもらいたい。何か全体で共有しておきたい事項はあるか。
委員	章立ての構成について、1章には1次計画の成果、国・都の動向、2章に本計画の概要、理念、目的、計画の位置づけや期間など、3章に具体的な取り組みを記載していく流れの方が読みやすいのではないかなと思う。
委員	保護者がみても、教員がみても、特別支援コーディネーターがみても、管理職がみ

	ても、困り感がある児童生徒が良くなっていくことに繋がっていくような記載が必要では。例えば、P22 の「学校への助言・支援業務」は、令和3、4年度で実施、令和5年度に検証・見直しとなっているが、何をしていくか、もっと具体的に、箇条書きでも良いので記載した方がわかりやすいのではないか。
委員長	誰が見ても一致して理解できるレベルまでは分かるような記載にしてほしい。

(2)章構成に関する変更について、事務局より説明

- ・本日の意見を踏まえて章立てについては再度事務局で見直す。
- ・多摩市障害者別解消条例について、何らかの章立てをして記載したいと考えている。ただし、条例自体がまだ策定中で制定されていないので、表現は工夫が必要。

(質疑・意見等)

委員	「障害のない」とは誰が決めることなのか。障害のない、障害のあるという言い方はすごく難しい言葉だと思う。計画の理念の中にその言葉が入るのかなと。
事務局	章立てとして記載は考えているが、表現については条例上の言葉なので現状としてそれをそのまま入れている。ただし、条例がまだ決まっていないので、表現は変えるつもりではあるが、言葉を変えた方が良いということであれば、意見を踏まえて検討していく。
委員	感じ方は人それぞれ違うと思うが、例えば P22 の「特別支援教室の利用・終了判定」というのが、終了という言葉なども、少しきついなという気もする。
委員長	条例の名称と、説明の中で使う言葉については吟味していただきたい。

4 確認事項

- ・第二次推進計画についての個別の意見、前回会議の要点録について意見があれば、11月7日(木)まで事務局にメール等で提出をお願いしたい。
- ・要点録はホームページに掲載予定。個人名は伏せて、委員という記載にする。

5 事務連絡

次回(第4回)は、令和2年1月28日(火)14:00から、教育センター202研修室で開催

以上